

カンキツの有機栽培における幼木期の生育及び品質等の特性

カンキツの有機栽培において、慣行栽培に比べて樹冠拡大は遅れるが、果実品質(糖度, 酸)は同等である

背景・目的

- ・県では「県有機農業推進計画」を策定し、有機農業を推進
- ・カンキツの有機栽培では、かしよう病など病害虫の被害によって安定生産が困難

成果の内容

有機栽培における苗木植栽5年目の幼木期の生育及び品質等の特性

- ・樹冠容積は慣行栽培の40～90%で、樹冠拡大に遅れ
- ・1樹当たりの収量は、慣行栽培より低い
- ・果実品質(糖度, 酸)は慣行栽培と同等



かしよう病被害

期待される効果

慣行栽培で樹冠拡大後、有機栽培へ移行することで初期生育を確保

有機栽培の生産安定

カンキツの有機栽培の面積拡大

○普及対象・範囲
カンキツの有機栽培生産者及び有機栽培志向生産者

鹿児島県農業開発総合センター果樹・花き部常緑果樹研究室 (R03)

表 有機栽培と慣行栽培の収量及び果実品質(R3年度)

品目	試験区	1樹当たり収量 (kg/樹)	糖度 (°Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)
レモン「璃の香」	有機	8	6.9	4.8
	慣行	35	6.9	4.9
ボンカン「KP-2」	有機	17	10.2	0.8
	慣行	32	10.5	0.9
ユズ「木頭系」	有機	33	6.8	4.1
	慣行	33	7.7	4.6
「かんきつ中間母本農6号」	有機	21	11.5	1.1
	慣行	32	12.2	1.1

有機栽培

慣行栽培



有機栽培と慣行栽培の生育の違い (レモン「璃の香」)

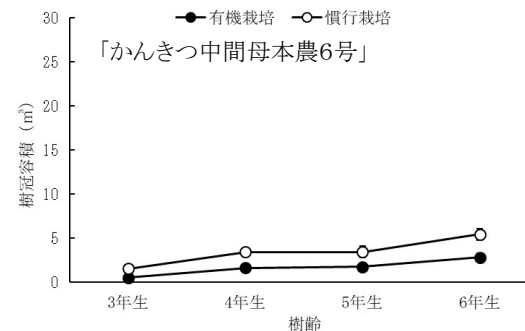
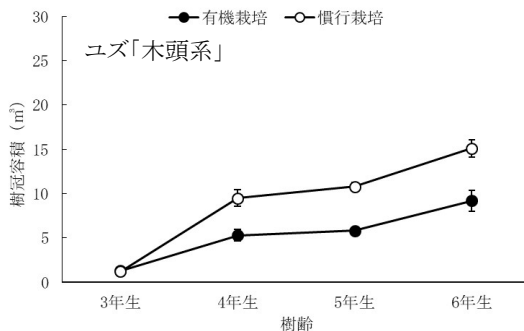
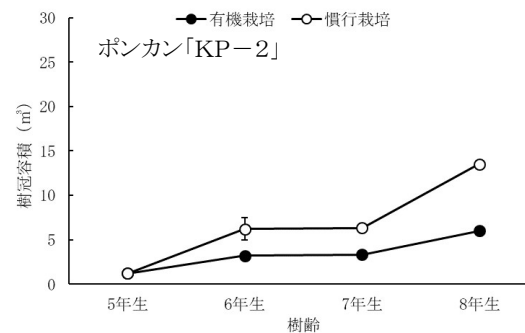
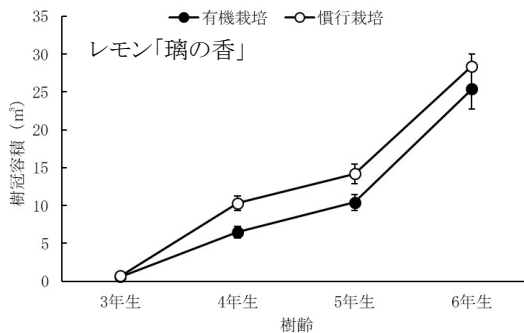


図 有機栽培と慣行栽培の樹冠容積の推移(H30～R3年度)